

e-mail: miho-moriki@tsuruoka-nct.ac.jp



森木 三穂

MORIKI Miho

総合科学科 助教

修士（文学）

◎所属学会：

中古文学会、同志社国文学会

◎専門分野：国語・国文学

◎キーワード：平安文学・『源氏物語』

今後やりたいこと：

現代の私たちの生活は長い歴史の上に成り立っており、古典文学はその「歴史」に生きた人々の心の機微を描いています。人を愛し、そして憎み…その想いは決して過去のものではなく、現在の私たちに通ずるところがあるのです。「豊かだけれども豊かではない」時代に生きる者として、先人たちが描いた文学作品を学び、そして今を生きる私たちに還元できれば、と考えております。

また鶴岡は歴史ある城下町です。鶴岡ゆかりの書物を学んでみたいと思っています。

『源氏物語』を中心に人の心の機微を読み解く

【シーズ紹介】

○『源氏物語』における「俗聖」

桐壺巻から始まり、夢浮橋巻までの54帖にも及ぶ長編作品である『源氏物語』において、「俗聖」という言葉はたった一度しか登場しない。「俗聖」とは宇治十帖・橋姫巻において、俗世にいながらにして仏道修行に励む八の宮に対する呼称として用いられた表現である。果たして「俗聖」とはどのような人物を指すのか。世間一般に浸透していた表現とは言えない「俗聖」を、なぜ『源氏物語』作者は用いたのか。そこに込められた意図を探ることを目的とする。

○『和泉式部集・和泉式部日記』における母性

恋多き女性として知られる和泉式部の作品を母性という視点から読み解く。



2014年1月7日付 荘内日報
『私と読書』リレーエッセーに
「道標としての読書」という題で
書かせていただきました。
小学生の時に出会った一冊の
本(写真右)が今の私の原点で
す。